

# 令和5年度 第2回芽室町環境審議会議事録

日時 令和6年1月25日(木) 15時30分から16時45分まで

場所 芽室町役場 会議室 7

## ○会議次第

### 1 開会

橋本 直樹 環境土木課長

### 2 会長挨拶

貫田 正博会長から挨拶

### 3 協議事項

芽室町地球温暖化防止実行計画(区域施策編)策定について

### 4 その他

### 5 閉会

橋本 直樹 環境土木課長

## ○出席委員(敬称略)

貫田 正博 稲垣 輝幸 阿部 浩 佐藤三千子 砂金 新一  
福間 智子 大原 卓也 村瀬 雅道 池田 敦志 後藤 勝幸

## ○欠席委員(敬称略)

大塚 玲奈 横田 聡 鈴木 昭博 井上 貴明

## ○傍聴人

0人

## ○町側出席者

橋本 直樹 環境土木課長  
齋藤 和也 環境土木参事  
久保田伸也 環境土木課生活環境係長  
中村 勢太 環境土木課生活環境係主事

## ○会議要旨

### 協議事項

#### ①資料2-1 地球温暖化防止実行計画(区域施策編)について

齋藤参事から資料に基づき説明。委員からの質問等は特になし。

## ②資料 2-2 町民・事業者アンケート実施結果について

齋藤参事から資料に基づき説明。

※各委員からの脱炭素の意識や取組、町が推進すべき事項に対する意見等

### 【委員】

ゼロカーボンへの取組・施策などは、これから具体的にになっていくものと受け止めた。十勝管内では、鹿追町や上士幌町が先進的な取組を行っているが、これらの先進地との協力などは、どのような予定か興味がある。

一町民の意見として、本州と北海道ではエアコンの設定温度に差があると感じた。本州の知人の話では、本州では室温を 10℃台で過ごしているという。自分自身は 22 度前後に設定しており、外気温や気候の差はあるものの、かなり温度を高くして生活していると感じた。寒い室内でも、家事などをしているとその熱で暖かさが広がるし、こうしたところから意識を変えていかなければならないと感じた。また、今回のような役場が行う会議や、高齢者支援課や生涯学習課などが行う運動講座などを Zoom などの WEB 配信にすれば、会場に行かなくても参加できる。天候状況や農村地区に住む高齢者など、会場に行くのにも難しい方の利便性向上にもつながる。また、車に乗れば燃料が使われるので、自宅で対応できるのであれば燃料を使わなくても済む。小さなことから変えていく必要がある。

### 【委員】

アンケート内に電気料金や LED 化の設問があったが、自分が仕事でかかわっている施設の電球が LED に切り替わった。以前は電球をたびたび交換しなければならなかったが、切替え後は交換頻度が減った。LED に変わったことも含め、最終的には取組がプラスになるのではないかと思う。

### 【委員】

資料 6 ページを見て思ったことは、農村区域の取組みが分かりやすくまとめられている。左側には「地産地消による CO2 削減」ということで地産地消を勧めようということや、「家畜排せつ物のエネルギー利用」ということでバイオマスの可能性が示唆されている。弊社でもバイオマスの活用について試算してみたことがあるが、金額的には全く採算性が合わない結果だった。

バイオマスの先進地である鹿追町や上士幌町は、酪農業が盛んであり、家畜排せつ物の量も多い。補助金を受けて設備導入していると聞いているが、その後の維持は大変だと聞いている。また、スマート農業に関しては、メリットもあるが導入費用が異常に高いといった課題もある。

弊社では、太陽光パネルの設置を検討したことがある。2～3 年前と比べて電気料が高騰している影響から検討したものであるが、設備導入費用と電気料を照らし合わせてみても、将来的なメリットが見込めないということで導入を取り止めた。アンケートの回答にもあるように、設備導入には多額の資金がかかる。資金の支援（補助）が必要との意見のとおり、費用対効果が得られないと、事業者としてはゼロカーボンへプラスになる取組はなかなか進まない。

### 【委員】

弊社でも、省エネルギーの取組みを行っているところ。熱エネルギーを回収する仕組みを導入、また、ボイラーで使っていた重油を都市ガスに切り替え、報道にも取り上げていただいた。LED 化も進めるなど、省エネ化に向けたさまざまな取組を行ってきた。会社として、今後どのような取組を進めていくか、太陽光パネルであったり、木質ペレットの導入やアンモニア・水素の燃料利用など、いろいろな情報提供を事業者に向けており、会社全体で 2030 年に向けた取組を模索している。

地球温暖化による影響については、高温によりビートの糖分が低下したことが挙げられる。そういう意味では、一番苦労しているのは生産者ではないかと思う。

#### 【委員】

弊社では食品加工を行っているが、地球温暖化に対する緩和策として省エネ型設備機器の導入を進めている。冷凍機がエネルギーを最も多く使用するため、必要なときだけ電力を使用するインバータ制御により、無駄なく稼働させる設備を導入した。そのほか必要な設備導入も順次進めているところ。食品メーカーとして、LED化は節電効果だけではなく、防虫対策としても有効。節水面では、人手不足のため、機械洗浄の際に水を出しっぱなしにせざるを得ない状況になるが、先端にバルブを設置するなど、制御できるようにして節水に努めている。そのほかにもペーパーレス化や廃棄物の発生抑制など、無駄のないよう対応に努めている。また、弊社は昭和47年と平成28年に河川の氾濫による水害に襲われており、会社敷地に土盛りや組立式の壁を導入するなど、敷地を守る構造を取っている。

地球温暖化の影響として感じているのは、作物の収穫時期の調整が難しくなっているところ。早い時期に収穫できる品種を作付けするなど、収穫時期を調整できるよう農家に工夫していただいているが、それでも一気に実る時期は生じることとなり、工場で一日に加工できる処理能力を上回ってしまうことがある。加工しきれずに家畜飼料に回るものもあるが、工夫しながら対応しているところである。

#### 【委員】

各事業所で脱炭素に向けて多くの取り組みを行っていることを知ることができた。学校でもできることを考えていかなければならないと感じた。

### ③資料 2-3 二酸化炭素排出量の推計・脱炭素シナリオの考え方について

齋藤参事から資料に基づき説明。

#### ※各委員からの二酸化炭素排出量の推計・脱炭素シナリオの考え方に対する意見等

#### 【委員】

町の導入ポテンシャルとして、太陽光パネルが再生可能エネルギー導入のメインとなるということは理解した。しかし、太陽光パネルを整備するにも二酸化炭素が大量に発生することとなり、また、設備を処理するときにも二酸化炭素が排出されると聞いている。本州ではゴルフ場か太陽光パネルだらけといった箇所もあるが、十勝の風景や魅力などを次世代に残すことを考えると、地域が太陽光パネルだらけになるのは得策ではないと考える。芽室町の良いところが残るような取組にしていきたい。

#### 【委員】

資料の中で、二酸化炭素排出量の将来推計など、数値的な内容も説明いただいたが、取組の達成は難しく感じてしまった。町民としては、『脱炭素に取り組むことができそう』ということがイメージできることが大切であるが、施設を整備する、物を買うなどお金がかかることばかり見えて、どれだけ効果的に脱炭素に反映されるのか目に見えず、達成できるイメージがない。

また、太陽光パネルの設置は費用が多額にかかる上、設置場所確保のために森林伐採をするなど二酸化炭素吸収の削減にもつながり、環境的にも脱炭素からは逆行した取組だと思っている。太陽光パネルを設置する取組は行わないでもらいたい。

その他

【委員】

二酸化炭素排出量を削減するには、排出量の多い部門から削減するのが効果的と思うが、それぞれの部門の排出量について、どのような方法で、どのような内訳で計算されているのかが分からなければ、削減取組みなど、その後のことについては考えられないのではないかと。

→芽室町の産業構造から、産業部門の二酸化炭素排出量が最も多くなっているが、特に大きな事業者については、現在にあっても二酸化炭素排出量削減に向けたさまざまな取組を行っていただいている。

算出している各部門の二酸化炭素排出量は、日本全体の二酸化炭素排出量から、芽室町における車両台数、事業者数など、さまざまな統計数値を活用して算出している。一方で、今回のアンケート調査において家庭や事業者におけるエネルギー使用量を調査しており、これらの使用量から算出した実態に近い数値も算出したところ。全体量からの按分と比べて、地域性が反映される実態とかけ離れている部門もあり、それぞれの実態に近い数値を整理したものである。

脱炭素への取組は、二酸化炭素排出量の削減という取組であり、その削減に向けては大変な面もあると思っている。しかし、それだけではなく、脱炭素をきっかけに今の生活スタイルをより便利で快適なものにしていくという一面もある。町民の皆さんに楽しみながら取り組んでいただくことも必要であり、今回の意見なども参考にしながら、地球温暖化防止実行計画(区域施策編)を策定していきたいと考えている。

その他、特になし。

16時45分 終了